



CQM(超短期経済予測モデル)

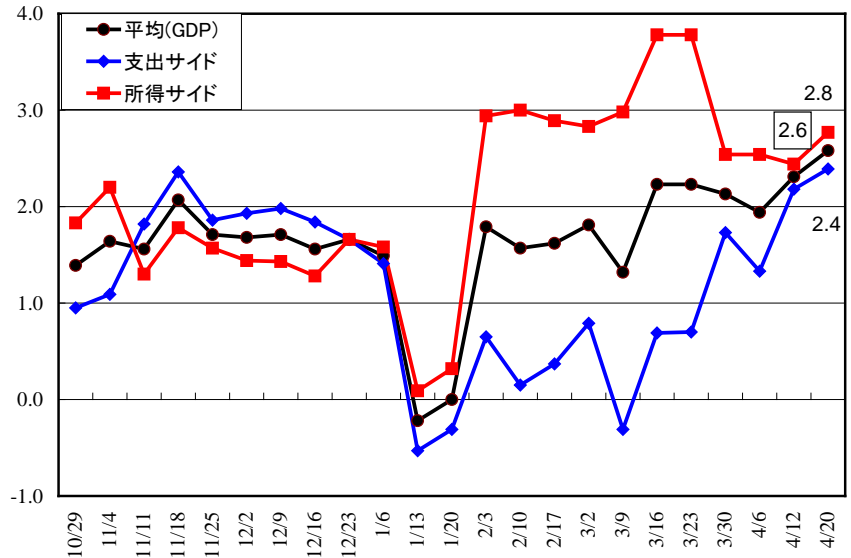
熊坂侑三 (APIR リサーチリーダー, ITエコノミーCEO)
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:kumasaka@iteconomy.com

米国経済(週次)予測(2012年4月20日)

ポイント

- ▶今週のCQMが1-3月期GDP予測の最終版となる。実質GDP成長率を支出、所得サイドからそれぞれ2.4%、2.8%と予測している(グラフ参照)。個人消費支出主導の経済成長になる。
- ▶BEAは同期GDP速報値の計算に3月の貿易統計、企業在庫などを仮定しなければならないが、CQMはそれらをARIMA手法から予測している。
- ▶GDP発表前にFOMCミーティングが開かれるが、ハト派が大多数を占める連銀において、彼らはゼロ金利政策の維持を決定するだろう。
- ▶反対があるとすれば、リッチモンド連銀のJeffrey Lacker総裁ぐらいだろう。
- ▶4月25日のFOMC声明の中で、連銀が1-3月期の経済状況を踏まえて、どのように彼らのゼロ金利政策の維持を正当化するのか。更に、彼らが出口戦略の可能性に触れるのかに興味もたれる。

CQM予測の動態：実質GDP成長率
2012Q1(%, 前期比年率換算)



<1-3月期実質GDP(速報値)成長率のCQM最終予測は2.4%~2.8%>

グラフは4月20日までに発表された2月の企業在庫、3月の消費者物価指数(CPI)、小売販売、鉱工業生産指数、住宅着工件数を更新したCQM予測を示している。今週のCQM予測が2012年1-3月期GDPの最終版となる。CQMは支出・所得サイドからの実質GDP伸び率をそれぞれ2.4%、2.8%と予測している。BEA(米経済分析局)は1-3月期GDP速報値を計算するために、3月の貿易収支、企業在庫、建設支出、耐久財出荷などを仮定しなければならない。一方、CQMはそれらをARIMA手法から予測している。

1-3月期の経済成長の特長は個人消費支出が主導していることである。おそらく、個人消費支出の経済成長率への寄与は2%程度になるであろう。BEAは支出サイドから実質GDPを計算するが、真の経済成長率を考える時、1-3月期において所得サイドから計算される名目GDPが支出サイドから計算されるそれより1,000億ドル(名目GDPの0.65%)大きくなっていることを理解しておくことは重要である。すなわち、発表される経済成長率より、真の経済成長率(ここでは支出サイドと所得サイドの平均)は幾分高いと考えられる。

4月27日に1-3月期GDP速報値が発表される。その前の4月24-25日にFOMCミーティングが開かれる。この時点において、連銀エコノミストは1-3月期GDPに関してかなりの情報を得ているはずである。例えば、同期の経済成長率が2%~3%になる可能性は高く、ヘッドラインインフレ率は連銀のインフレ目標の上限の2%程度まで上昇してきている。しかし、ハト派が大多数を占めるFOMC委員会では、ゼロ金利政策の維持が決定されるだろう。おそらく反対はリッチモンド連銀のJeffrey Lacker総裁ぐらいだろう。4月25日のFOMC声明において1-3月期の経済状況を踏まえて、連銀がどのようにゼロ金利政策維持を正当化するのか、また少しでも出口戦略の可能性に触れるのかに興味もたれる。

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6441-0550